

京都市自然環境に係る課題

(1) 生きものの減少，生息場所の減少

住宅地の拡大，水田の宅地への転用等により，里山など生きものが生息できる場所が減少している。

里山の減少等により，市街地にシカ等の鳥獣動物が出現しやすくなり，こうした動物が農作物等に被害（食害）を及ぼしている。また，伝統的な祭祀に欠かせないチマキザサやフタバアオイ等の在来の生物が減少し，伝統的な文化の継承が危ぶまれている。

(2) 人と自然との関わりの変化と生物多様性の恵みの低下

担い手（後継者）不足により管理が行き届かないことや，ライフスタイルの変化（木質燃料から化石燃料への転換など）により，森林の荒廃が進んでいる。

松枯れ・ナラ枯れ等森林の荒廃は，景観（借景）の劣化をまねくとともに，水源涵養，森林による土砂災害防止機能を低下させ，水害を生じやすくさせている。

(3) 自然環境保全に係る情報ネットワークや活動プログラムの不足

市民，事業者を対象としたアンケート（平成23年度実施）において，市民の意識等については，以下のような結果であった。

ア 市民の多くは，生きもの（動植物）と京都の文化・歴史の結びつきを強く意識しているものの，生物多様性に関する認知度は低い（約4割）。

イ 市民の約9割が自然環境に対する関心を持ち，何らかの保全活動に関わりたいと思っているものの，実際に活動している者は4%に過ぎない。

ウ 事業者の約7割がCSR活動の一環として，自然環境の保全活動への参加意欲を持つものの，実際に活動している事業者は約4割にとどまっております，活動していない主な理由は，「市民等とつながる手段・機会を持っていないため」であった。